

環境行動計画と進捗状況

グローバルな企業活動を通じて、先進的な環境保全活動を推進し、「環境経営」を実現するために、リコーグループは環境行動計画を定め、その実現に向けて取り組んでいます。リコーグループでは、まず企業活動全体のエコバランスを把握し、どの工程からどの程度の環境負荷が発生しているかを把握し、これに基づいて効果的に

	目 標
環境マネジメントシステム <small>*15 - 16ページ参照。</small>	リコーは2000年9月までに、リコーグループは2001年度末までに、生産拠点に引き続き、国内外全事業拠点でISO 14001の認証を取得する。
環境経営情報システム <small>*17 - 18ページ参照。</small>	2000年度末までに、複写機、ファクシミリ、レーザープリンター分野の環境負荷情報システムを構築する（それ以外の分野は2001年度末までに構築） 2000年度末までに環境経営情報システムを構築する。
省資源・リサイクル(製品) <small>*37 - 42ページ参照。</small>	2001年度末までに日本、欧州、米州、中華(中国・台湾)、アジア・パシフィック地域での製品、消耗品(特にトナーカートリッジ)の回収リサイクル体制を確立する。 2001年度末までに、複写機、ファクシミリ、レーザープリンター(トナーカートリッジを含む)の再資源化率を90%以上とする。
省資源・リサイクル(事業所) <small>*43 - 46ページ参照。</small>	リコーは2001年度末までに、最終廃棄物量を90%削減する(1992年度比) 国内のすべての生産系事業所は、2000年度末までに再資源化率100%(ごみゼロ)を達成する。 国内のすべての非生産系事業所は、2001年度末までに再資源化率70%を達成する。 海外のすべての生産系事業所は、2001年度末までに再資源化率100%(ごみゼロ)を達成する。
省エネルギー(製品) <small>*47 - 48ページ参照。</small>	2001年度末までに、製品1台当たりのエネルギー消費を30%削減する(1996年度比) 両面コピー速度の向上、使用可能な再生紙の範囲を拡大することにより、製造時に多大なCO ₂ を排出する紙の有効利用を推進する。
省エネルギー(事業所) <small>*49 - 50ページ参照。</small>	リコーは、2001年度末までに、売上高に対するCO ₂ 排出量を15%以上削減する(1990年度比)。(リコー以外の国内外の生産系事業所は1990年度比15%以上を目安に各社設定する) 2001年度発売の全製品に関して、鉛、PVCなどの特定化学物質の製品1台当たり含有量を50%以上削減する(1997年度発売開始製品比)
汚染予防(製品) <small>*51 - 52ページ参照。</small>	2001年度発売開始の複写機、ファクシミリ、レーザープリンター分野の製品に関して、騒音を2dB以上低減、オゾンなどの排出量を20%以上削減する(1997年度発売開始製品比)
汚染予防(事業所) <small>*53 - 54ページ参照。</small>	リコーグループは、2001年度末までに、PRTR対象物質の使用量を20%以上削減、排出量を50%以上削減、最終埋立量は全廃する(1997年度比) リコーグループは、2001年度末までに、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンの使用を全廃する。 ジクロロメタンの使用について、2001年度末までに既存の有機感光体製造用途を除いて廃止、2007年度末までに全廃する。

環境負荷を削減するための環境行動計画を立案しています。

また、各年度の環境保全効果および経済効果については、環境会計によって算出し、次年度の環境報告書で公表しています。

進捗状況（1999年度実績）

- ▶ リコーの非生産系11事業所を統合して2000年9月の認証を目指して環境マネジメントシステムの構築を進めています。
また、販売系(販売事業本部、支店、販売会社)446拠点、リコーロジスティクス8事業拠点、リコーテクノシステムズ286事業拠点ではマルチサイト方式で、さらに海外販売拠点(Ricoh Corporation, Ricoh Europe B.V., Ricoh Hong Kong Ltd., Ricoh Asia Pacific Pte. Ltd.)でも環境マネジメントシステムの構築を進めています。
- ▶ 現在、一部の事業所で、製造工程の負荷情報収集データベースおよび廃棄物計量システムが稼働開始し、電力モニタリングシステムの試行が始まりました。使用工程の製品情報については、製品情報システムが稼働を開始しています。保守工程では、環境側面データ入力データベースの運用を開始しました。設計・調達工程などについてもシステムを作成し、試行を開始しています。
- ▶ 1999年度、環境会計情報システムとして費用集計システムの構築が完了、1999年下期よりリコーで稼働しています。
- ▶ 1999年度現在、リコーの社内ITシステム上に、環境関連法規改訂情報データベース、環境ラベルフォーラム、製品リサイクル/省エネ規制データベース、社外問い合わせデータベース、ホームページ問い合わせデータベース、販売系環境フォーラム、事業所廃棄物データベース、フォーラム(CO₂)などのシステムが構築されています。
- ▶ **製品の回収・再資源化体制**
日本では回収センターが19カ所、リサイクルセンターが6カ所で稼働し、今年度中に全国体制が構築完了する見込みです。
欧州、米州、中華、アジア・パシフィックでは現在、体制を構築中です。
- ▶ **トナーカートリッジの回収体制**
日本、欧州、米州では回収体制がほぼ構築完了しました。中華、アジア・パシフィックでは体制を構築中です。
- ▶ **トナーカートリッジの再資源化体制**
日本、欧州、米州では再生を行っており、再資源化の体制も構築を進めています。中華、アジア・パシフィックでは体制を構築中です。
- ▶ 複写機の1999年度下期の再資源化率実績は日本国内で87%です。海外でも再資源化を進めています。
- ▶ 1999年度実績で削減率89.4%です。
- ▶ 2000年3月現在、7事業所(リコー福井、沼津、御殿場、秦野、厚木の各事業所、リコーユニテック、パソコンポネントシステムさがみ野工場)が、ごみゼロを達成。本年度中にすべての事業所でごみゼロ達成する見込みです。
- ▶ 1999年度で59.6%です。
- ▶ 1999年度現在、まだごみゼロ化を達成していませんが、Ricoh Industrie Franceで再資源化率99%を達成するなど、ごみゼロ化に向けて活動を進めています。
- ▶ 白黒複写機のエネルギー消費は1999年度は、1996年比92.5%です。 *計算方法は47ページのグラフキャプションを参照。
- ▶ ファクシミリ機のエネルギー消費は1999年度は、1996年比59.6%です。 *計算方法は47ページのグラフキャプションを参照。
- ▶ 紙搬送技術の向上により、複写機およびレーザープリンターの両面コピーの生産性*を上げています。1999年度に発売した複写機では、連続コピー時で100%の両面コピー生産性を達成した機種もあります。 *両面コピー生産性(%)=(片面 両面コピーをとるのにかかった時間)/(片面 片面コピーをとるのにかかった時間)×100
- ▶ 1999年度発売の複写機、ファクシミリ、プリンターのすべての機種で64g/m²の用紙が使用可能です。
また、1999年度発売のすべての機種で古紙配合率70%以上の再生紙に対応しています。
- ▶ 1999年度のリコーは、10.3%削減(1990年度比)になっています。国内生産関連会社の7社中6社は24.5～66.7%削減となっています。
- ▶ 鉛フリーはんだ、ポリオレフィン系ハーネス、六価クロムフリー鋼板への代替を決定し、2001年度以降発売の製品に全面的に採用する予定です。
- ▶ 1999年度実績は、1997年比、稼働時騒音1.7dB低減、待機時騒音2.5dB低減しています。
オンソについても20%削減を達成しています。粉じんについては1997年度に比べて若干増えています。
*発売した複写機全体に対して、発売台数の重み付けを行い、コピー速度毎分50枚機に換算して計算しています。
- ▶ 1999年度の使用削減量は13.2%、排出削減量は16.7%です。
- ▶ トリクロロエチレンについては国内外で全廃し、テトラクロロエチレンについても国内は全廃を達成しました。残る海外1事業所のテトラクロロエチレン使用についても、2001年度には全廃できる見込みです。

*2000年追加項目。